

第 1 学年国語科学習指導案

日 時：平成 18 年 1 1 月 2 1 日（火）
 場 所：1 年 1 組教室
 学 級：1 年 1 組（男子 17 名女子 16 名）
 指導者：千葉哲文

1 単元名 五 真実を語る 「未来をひらく微生物」(光村図書 1 年)

2 単元について

(1) 単元全体の教材観

一学期二単元では説明的な文章の読解の基礎として「段落に着目すること」と「問題提起とその答えに着目すること」を中心に学習した。また、接続詞や指示語に着目する学習も行った。「未来をひらく微生物」では、それぞれの段落がどのような役割を持っているのか、どのような文章構成になっているのかを学習する。

当教材は、各段落のはじめに接続詞・指示語を用いていることでそれぞれの段落の関係が非常につかみやすくなっており、「序論」「本論」「結論」の構成となっている。「本論」はさらに二つに分かれている。

また、微生物の働きを人間生活に例える等、わかりやすくするための工夫もされている。文章構成を意識して読解することにより、内容把握が容易にできる文章である。

内容については、微生物の働きに関して述べられており、デンプンを発酵して作ったプラスチックが水と二酸化炭素に分解されること等、生徒の興味・関心をひくものとなっている。

「調べたことを正確につたえよう」では、この文章で学習したことを生かし、レポートを書くことになっている。自分で文章構成をし、レポートを書くことをねらいとしている。

「文法 2」では、さらに文の構造を詳しく学習することをねらいとしている。

(2) 生徒について

学習定着度状況調査の正答率を見ると、文章の展開に即して内容をとらえる問題は 76%、論理の道筋をあきらかにする問題は 78%であったのに対し、文章の構成をとらえる問題は 45%であった。

そこで、読解指導では文章構成を意識させる必要があると思われる。

その状況をうけて、説明文の構成をとらえることについて実態調査した結果が以下の表である。

説明文の構成をとらえることは得意ですか。		構成をとらえるときにどんなことに留意していますか。
得意である。	0%	*****
やや得意である。	83%	「接続詞」や「指示語」に着目している。 「はじめに」「次に」等、順番や数を示す言葉に着目している。
やや不得意である。	17%	「接続詞」や「指示語」に着目している。 「はじめに」「次に」等、 <u>順番や数を示す言葉には着目していない。</u> 細部のみに目がいき、全体を見通せていないと思われる。
不得意である。	0%	*****

説明文の指導では一学期に「指示語」は_____、「接続詞」は_____で囲む等作業を伴った学習を行った。その結果、生徒達は指示語・接続詞に着目できるようになってきている。

「要約」に関しては数人に黒板に要約文を書かせた後、キーワードを確認しながら全員で添削した。さらに各自の要約を自己添削し、最後に書き直しをする指導をおこなった。

本教材に出てくる言葉について生徒達が知っていることは「微生物については、身の回りにあるもの」、「発酵については、パンや納豆等、生活の役に立っていること」という程度のものであった。また、「生分解性プラスチック」については、全体の 2 割程度しか知らない状況であった。

(3) 単元全体の指導観

説明文では、興味関心を引く内容でわかりやすい展開であることを生かしながら、次の観点で指導していきたい。

微生物と環境に対する筆者のものの見方・考え方を理解させる。

段落の役割に着目させ、文章構成や展開を正しくとらえさせる。

をふまえて新しい情報を収集整理し、環境問題への関心を深める。

身近な生活から課題を見つけ、情報を生かしながら自分の意見や感想を明確にした文章を書く。

上記(2)の生徒の実態をふまえ、構成をとらえる指導を工夫していきたい。「やや不得意」とする生徒については大まかに全体像をとらえる観点を指導したい。また、興味・関心を生かした指導も心がけたい。

書くことに関しては、調べたことをレポート形式で筋道立てて書くことを指導したい。

「文法2」では文の成分を学習し、日常の言語生活に結びつく指導を行いたい。

3 単元の目標及び評価規準

(1) 目標

「国語への関心・意欲・態度」に関する目標

- ・微生物と環境に対する筆者の見方や考え方を理解できる。
- ・身近な生活から課題を見つけ、それについて調べ、報告できる。

「読むこと」に関する目標

- ・今後のレポート作成につなげることを視野に入れ、接続詞や指示語の効果的な使い方・例示表現等の特色に着目できる。
- ・段落相互の関係に着目し、序論・本論・結論や問題提起、例示、詳細の説明等の働きについて読み分け、文章構成や展開を正確に把握できる。
- ・微生物と環境との関係を理解し、微生物の利用の仕方などに関する新しい情報を集めようとする。

「書く」に関する目標

- ・身近な問題について伝えたい事実や考えをレポートにまとめることができる。

「話す・聞く」に関する目標

- ・自分の考えや気持ちを相手に理解してもらえるように話したり、話し手の意図を考えながら聞き取ったりできる。

「言語事項」に関する目標

- ・科学用語や漢語など、多様な語句について理解を深めることができる。
- ・文の組み立てについて理解できる。

(2) 評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

- ・初めて知ったことや不思議に思ったこと、調べてみたいと思ったことをまとめている。
- ・自分の課題にそって資料を積極的に調べている。

【読む】

- ・接続語や指示語の役割を理解している。
- ・読み手に配慮した文章の工夫点を挙げている。
- ・文章の構成をつかみ、段落の相互関係を理解している。
- ・読者の興味・関心を引きつける展開の工夫をとらえている。
- ・文章を読み、興味をもった事柄についての確かな方法で情報の収集と整理をしている。

【書く】

- ・キーワードをもとに要約ができる。
- ・事実と意見を書き分けて構成を工夫する等、相手意識をもってまとめている。

【話す・聞く】

- ・事実と意見の書き分けに注意して聞こうとしている。

【言語】

- ・文章の重要な語句の意味を調べ、具体的に付け足して説明している。
- ・文の働きを理解し、文の成分を理解している。

4 単元の指導・評価計画 「未来をひらく微生物」(5時間扱い)

時	学習内容	評価規準				
		国語への関心 意欲・態度	読む	書く	話す・聞く	言語
1	内容に関心を持ち、自分の見方をまとめ、発表する。	微生物について初めて知ったことや不思議に思ったこと、調べたいこと等まとめている。 (観察・自己評価シート)			印象に残った発言を記録しようとしている。(観察)	重要な語句の意味をしらべている。 (観察・ノート)
2	文章全体の構成をつかみ、序論部分から微生物の働きを読み取る。		段落を序論・本論・結論に分け、微生物の働きを読み取っている。 (観察・自己評価シート)			
3 本時	本論から二つの具体的な試みを読み取り、筆者の表現の工夫を考える。		読者の興味・関心を引きつける展開の工夫や構成をとらえ、二つの試みを読み取っている。 (観察・自己評価シート)			
4	まとめの部分を読み、結論をまとめる。重要語句をわかりやすく説明する。	微生物を利用した環境問題解決の方法に興味・関心を抱いている。 (観察・自己評価シート)	微生物と環境問題解決について筆者の考えをつかんでいる。 (観察・自己評価シート)			
5	微生物を利用した環境問題の解決策がないかを調べる。			全体の構成を工夫して、調べたことをまとめている。 (観察)		

「調べたことをまとめよう。」(6時間扱い)

時	学習内容	評価規準				
		国語への関心 意欲・態度	読む	書く	話す・聞く	言語
1	身近な生活の中から課題を見つけ、レポートの書き方を確認する。	自分の興味を持った事柄について課題を設定している。				
2	情報検索・収集の方法について理解し、必要な情報を集め、記録する。			資料の中から必要な情報を簡潔に書き出している。		
3	集めた情報を整理し、取捨選択を行い、全体の構成を考える。			資料の中から選択した情報を整理し、筋道立てたレポートの構成を考えて下書きをしている。		
4	レポートの形式について理解し、調査結果について清書する。			調査の動機・目的を読み手にわかりやすく簡潔にまとめている。		
5	構成を工夫しながら清書し、レポートを完成させる。			全体の構想を工夫して調べたことをまとめている。		
6	発表会を通して意見を交換しあい、互いのレポートの内容を深めあう。				レポートをもとに自分の報告をわかりやすく伝えている。	

「文法2」(2時間扱い)

1	文の成分について理解する					「主語・述語」「修飾・被修飾の関係」を文中から抜き出す。 接続語・独立語を文中から抜き出す。
2	文の組み立てについて理解する。					文節同士の関係を明らかにすることで、わかりやすい文になることに気づく。

5 本時の指導

(1) 指導の構想

本教材の整然とした文章構成を生かして、見通しを持って内容把握を行わせたい。
 特に微生物の新しい活用法の読み取りについては、書き出しのことばに着目させたり構造的な板書を工夫したりして指導したい。
 また、環境問題を解決する二つの試みについては、自分の意見とその理由を持たせることにより、本文の内容をより深く読み取る指導を行いたい。

(2) 本時のねらい

段落に着目させながら微生物を利用して環境問題を解決する二つの試みをとらえる。

(3) 評価規準

評価規準	具体的評価規準		「努力を要する生徒」への手立て
	十分に満足できる(A)	おおむね満足できる(B)	
微生物を利用して環境問題を解決する二つの試みについて読み取ることができる。	意味段落の構成を意識し、環境問題を解決する二つの試みについて例示等の表現の工夫に気づきながら、読み取ることができる。	意味段落の構成を意識し、環境問題を解決する二つの試みについて読み取ることができる。	5段落の内容をふり返らせ、「まず」「次に」の言葉に着目させながら、環境問題を解決する二つの試みについて確認させる。

(4) 本時の展開

段階	学習内容	教師の支援・指導	指導上の留意点 評価(方法)
導入 3分	<p>1 課題把握</p> <p>(1) 課題づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 微生物は、人間の生活に役立っていることや地球の掃除をしていることを想起し、さらに学習したいという意欲を持つ。 <p>(2) 課題の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題をつかむ 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習に関して確認し、課題を解決したいという意欲を持たせる。 ヨーグルト(乳酸菌) パン(イースト菌) 落ち葉 課題を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近なものから興味を喚起し、課題意識を高める。 紙板書
<p>微生物を使って環境問題を解決する二つの試みとは、どんな試みか。</p>			
展開 42分	<p>2 課題追求</p> <p>(1) 課題解決方法の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 本論の部分から環境問題の解決策として微生物の働きの利用方法を読み取ることを確認する。 <p>(2) 追求</p> <ul style="list-style-type: none"> 一斉読により、微生物を利用した試みが二つあることを確認する。 本論を段落のはじめの言葉に留意しながら二つに区切る。 <p>・微生物を利用した二つの試みについて自力解決を行う。 音読を通して</p> <p>学習シートを通して</p> <ul style="list-style-type: none"> 二つの試みについて全体で確認する。 <p>3 課題解決</p> <ul style="list-style-type: none"> 二つの試みについて話し合う。 文章の構成や表現の工夫をとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 5～16段落から環境問題の解決策として微生物を使った試みを読み取ることを説明する。 5段落を一斉読し、微生物を利用した試みがいくつあるか問いかける。 6～16段落のはじめの言葉に着目し、意味の切れ目を確認する。 微生物を利用した二つの試みを自力解決で読みとる方法を説明する。 内容に留意させながら音読させる。 学習シートに要点を記入させる。 発表させて確かめ合う。 机間指導 自力解決の結果を確認する。 6～12段落と13～16段落の内容について深化を図る。 板書で構造的にとらえさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ひとつは」「もう一つは」の言葉に着目させる。 「まず」「次に」の言葉に着目させる。 6～12段落と13～16段落を色分けさせ文章の切れ目を意識させる。 学習シート 「まず」「次に」「第一の方法は」「もう一つの方法は」の言葉に着目させる。 評価の場面 (生徒の観察・学習シート) 比較している段落 例示している段落 について確認する。
終末 5分	<p>4 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の感想をまとめる。 感想を発表し合う。 自己評価をする。 <p>5 次時の予告</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業でわかったことを書かせる。 本時の学習の感想を発表することで振り返らせる。 自己評価シートに記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価シート

「未来をひらく微生物」学習シート

課題

試み

(製品名)

石油
プラスチック
焼却・埋め立て
ダイオキシン
分解されない

でんぷんを発酵
たい肥に混ぜる
と
に
分解
光合成

(製品名)

石油
ガソリン
公害のガスが出る。

公害のガスが
を発酵

の方法

もともといる微生物に
を与え活発にする。

食事
休養

の方法

微生物を
で増やし、
汚染地域に
する。

薬
注射

課題

微生物を使って環境問題を解決する二つの試みとは、どんな試みだろう。

まず

微生物を利用して環境問題を起こさない製品を作る試み。

(製品名) 生分解性プラスチック

石油

プラスチック

焼却・埋め立て

ダイオキシン
分解されない

でんぷんを発酵

対比 生分解性プラスチック

たい肥に混ぜる。

水と二酸化炭素に
分解される。

光合成

(製品名) エタノール

石油

ガソリン

公害のガスができる

対比

でんぷんを発酵

エタノール

公害のガスがでない。

次に

汚染された環境を微生物の力で元に戻す試み。

第一の方法

もともといる微生物に栄養や酸素を
与え活発にする。

例

食事
休養

もう一つの方法

微生物を 他の場所 で増やし、

汚染地域に 注入 する。

例

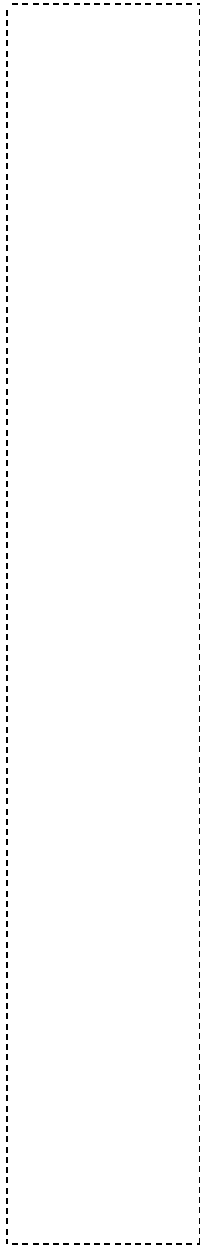
薬
注射

1 説得力があったのはA・B どちら? をつける

Aの試みの説明のしかた

Bの試みの説明のしかた

2 1の理由を書こう。



評価

1 微生物を使って環境問題を解決する二つの試みをつらえることができたか。

4 3 2 1

最高評価は4。

2 学習を終えての感想を書こう。

